



場合によっては、行政区域にとらわれず、利用者の需要に応えるモビリティの提供など広域的な視点が必要

- ・自治体がバスの路線を検討するときには、行政区域内（市内）の移動のみで考えがちであるが、地域性によっては、市外の主要な地区への移動需要が見込まれる場合もある。広域的な視点を持った検討も重要。

知恵袋（その 22）

市外の主要地区を結ぶなど、ニーズを踏まえた路線設定と、利用者への情報提供で継続的な利用者確保を行う。 ～とよやまタウンバス～（愛知県豊山町）

- ・名古屋市、小牧市など近隣市への移動ニーズに対応するため、近隣市の中心市街地、病院などの公共施設までのバス路線を設置。
- ・「飛び込みグループインタビュー」で利用者の真の声を聞く努力をするとともに、官民区別のない一体的な広報を行うことで、町営バス、民間バスの一体的な利用者増加につながっている。

“陸の孤島”を解消

- ・豊山町は、人口約 1.5 万人、面積約 6.2km²、人口密度 2,330 人 / km² の小規模な都市であり、鉄軌道が無い上、近隣市中心部までのバス路線が撤退（平成 14 年）したこともあり、当時は“陸の孤島”といわれ、公共交通網が極めて脆弱であった。また、通勤・通学時の近隣市中心部まで直接アクセスできる生活交通の確保が、アンケート調査などで住民の強い要望として挙がっていた。
- ・そこで、豊山町では、近隣市との協議調整にあたり、豊山町と近隣市中心部を結ぶことで近隣市にとってもメリットがある（例：近隣市の総合病院へのバス運行による、病院への利便性が向上）こと等を強調し、町営バスであるが自らの行政区域内にとらわれず、近隣市中心部へのバス路線開設、バス停設置を実現させた。

町営バスと民間バスの案内情報を一体化

- ・当町のバスに対する基本理念は、町営バス（とよやまタウンバス）のみならず民間のバス事業者も一体的に広報することにより、バス全体のサービスレベルや認知度を向上させることである。一例として、豊山町公共交通マップには、町営バス（とよやまタウンバス）のほか、民間のバス路線や時刻表・運賃表も併記されており、目的地に合わせた最適なバス路線が掲載されている。

「本音」のニーズを把握

- ・また、豊山町では、バスに対するニーズ把握として、利用者がどの程度のサービスレベルを必要としているかといった細かいニュアンスを汲み取るため、町内 3 箇所で行き込みのグループインタビュー（5 人～7 人で 15 分程度）を実施している。

仲間同士のグループに対して、「飛び込みで雑談の中で短時間に本音を聞きだす」ことがポイント。これが住民に対する町やバスの広報・PRにも繋がる。

- ・このようなニーズ把握等を通じて継続的に（少なくとも 2～3 年に 1 度）、バス運行に関する見直し等が重要である。豊山町では、上述の取組みや改善によって、町営バスの一体的な利用者増加につながっている。



図 3-26 豊山町のバス路線図

(出典) 豊山町提供資料



写真 3-17 とよやまタウンバス

(出典) 豊山町提供資料

<コラム：地域モビリティを持続させるためには、関係者の適切な役割分担・連携が必要>

- ・ A市では、市制施行65周年記念イベントの一環として事業募集したところ、地元の商店街連合会を中心とするコミュニティバスの事業提案があった。事業提案の背景としては、商店街の商圈内に大規模商業施設が立地したことによる危機感と、商店街の活性化が狙いであった。また、学識経験者のアドバイスも参考に、昼間よりも夜間（深夜）運行を収支の柱とする形態を想定していた。
- ・ しかしながら、地域公共交通会議において、夜間（深夜）運行が認められず、昼間のみの運行となった上に、民間バス路線との競合を避けるため、当初予定していたルートは縮小を余儀なくされた。
- ・ 運行開始から半年間は利用者数も増加傾向にあったが、それ以降は利用者数の伸び悩みと減便による負の連鎖により、資金負担の財政的な理由から、取組みが頓挫した。
- ・ この主な要因としては、地域公共交通会議等における事前の調整や連携の不足などを挙げることができる。
- ・ 地域モビリティを持続させるためには、地域にとって必要な交通への相互理解と関係者の適切な役割分担・連携が必要といえる。